



2020年7月8日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディコミュニケーションセンター

Audi Q4 Sportback e-tron conceptを発表

(ドイツ本国発表資料)

- Audi Q4 e-tronの4ドアクーペバージョンを、コンセプトカーとして発表
- 多彩な効率化テクノロジーにより500kmを超える航続距離を実現
- 量産開始は2021年（欧州）

2020年7月7日、インゴルシュタット：アウディは、Audi Q4 Sportback e-tron conceptを発表します。このクルマは、技術的な観点から見ると、2019年のジュネーブモーターショーで公開されたアウディ初のコンパクト電動SUV、Audi Q4 e-tron conceptをベースにしていますが、デザインの観点から見ると、まったく独自のキャラクターを持っています。Q4のSUVクーペ版となるAudi Q4 Sportback e-tronは、2021年から生産が開始されます。

この発表より、Q4の購入を検討しているお客様は、最初のクルマが市場に導入される約1年前から、2つのバージョンのどちらを選択すべきかを検討し始めることができます。Q4 e-tronは、多目的で頑丈な、オフロード指向の典型的なSUVですが、Q4 Sportback e-tronは、クーペを連想させるダイナミックでエレガントなスタイルを備えています。2つのQ4モデルの寸法はほぼ同じですが、Sportbackの全長は4.60mで1cm長く、全高は1.60mで1cm低くなっています。全幅は1.90m、ホイールベースは2.77mで、まったく同じです。

2つのコンセプトカーは、今後の量産モデルに導入されるトップクラスの電気駆動システムを先取りして搭載し、同じ駆動テクノロジーを搭載しています。Audi Q4 e-tron及びQ4 Sportback e-tron conceptは、225kWのシステム出力を発生し、2基の電気モーターによって駆動されます。アウディの他のモデルと同様、駆動力はquattroフルタイム4輪駆動システムを介して路面へと伝達されます。その優れたトラクションにより、Q4の両バージョンは0～100km/hをわずか6.3秒で加速します。最高速度は、電子的に180km/hに制限されています。

82kWhの大容量バッテリーは、前後アクスル間のフロア下のほぼ全てのスペースを占めています。WLTPサイクルで450kmを超える航続距離（欧州計測値）は、このクラスのベンチマークを打ち立てます。Q4には上位モデルのクワトロに加えて後輪駆動バージョンもあり、こちらはWLTPサイクルで500kmを超える航続距離（欧州計測値）を誇ります。Audi Q4 e-tron conceptは、モジュラー エレクトリフィケーション プラットフォーム（MEB）をベースにしています。MEBは、コンパクトクラスからアッパーミドルクラスに至るまで、将来的にフォルクスワーゲングループが製造する数多くの電気自動車に採用される予定です。Audi Q4 Sportback e-tron conceptは、アウディが2021年に発表する電気自動車の姿を垣間見せてくれます。



魅力的なリヤスタイル：エクステリア

Sportbackのシルエットは、繊細かつダイナミックな弧を描きながら、後方に向かって傾斜しています。ルーフラインは大きく傾斜したDピラーへと流れこみ、リヤリップスポイラーへと伸びています。その結果、Audi Q4 Sportbackの全長は、姉妹モデルのQ4 e-tron conceptよりもずっと長く見えます。

Audi Q4 Sportback e-tron conceptの左右のリヤランプ間を結ぶ印象的な幅広いライトバンドも、Audi Q4 e-tron conceptのエレメントを反映したものです。これらの2つのモデルが同じe-tronファミリーに属していることは、一目で分かります。Audi Q4 Sportback e-tron conceptのデザインは、e-tron Sportbackと様々な面で共通点を備えています。これは、ライトの内部構造にも当てはまります。複数のLEDセグメントに分割されたテールライトも、上位モデルとの関連性を印象づけます。水平バーを備えたバンパーディフューザーユニットの印象的なデザイン及び中央に設置された照明付きe-tronロゴは、2つのQ4バージョンに共通するエレメントです。

正面から見ると、アウディの4リングスロゴが装着されたシングルフレームグリルが、アウディラインナップの一員であることを明確に示しています。さらに、このクルマがアウディの電気自動車であることもすぐに分かります。アウディ初の電気自動車、Audi e-tronと同様、この新しいコンセプトモデルも八角形シングルフレームグリルを備えています。内燃機関のようなラジエーターは備えないため、グリルの表面は閉じた構造になっています。

4つのホイールをデザイン的に強調するフェンダーは、1980年に登場した伝説的な初代quattro以来、アウディデザインを象徴する役割を果たしています。Audi Q4 e-tron concept及びAudi Q4 Sportback conceptのワイドなフェンダーは、非常に有機的で流れるようなデザインを備え、サイドビューに豊かな表情を付け加えています。前後ホイール間のサイドシルエリアに設置されたアクセントは、この電動SUVのパワーユニットであるバッテリーがこの場所に搭載されていることを示すもので、e-tronの特徴となっています。22インチの大径ホイールは、アウディファミリーに加わった最新モデルの卓越したポテンシャルを示しています。

Q4 Sportback e-tron conceptは、新しいキネティック グレーカラーと呼ぶボディカラーを纏っています。明るいメタリックとパールエフェクトを組み合わせたこのカラーは、見る角度によって緑がかった色合いを見せます。それとは対照的に、ボディのロワーセクションは、ダークグレーで塗装されています。2つのカラーのコントラストによって、車両の幅広さと水平基調のデザインが強調されています。

広々とした室内 - インテリア

Audi Q4 Sportback e-tron conceptは、コンパクトクラスでありながらも、広い室内を特徴としています。その余裕ある積載スペースによって、この電動SUVは、俊敏なオールラウンダーとしての素質を備えています。コンパクトな外寸法とは対照的に、2.77mのホイールベースは、1クラス上の室内スペースを実現しています。電気自動車のQ4 Sportback e-tron conceptには、室内スペースを制限するトランスミッショントンネルが存在しないため、フロント及びリヤシートの両方で、外観から想像するよりも遥かに広いスペースと快適性を提供します。



さらに、インテリアの配色も広々感を強調しています。インテリアの上部は、暖色系の明るい色を基調にする一方で、フロアには暗色系のカーペットが採用され、見事なコントラストを醸し出しています。ヘッドライニング、ウィンドーピラー、ドアレールとダッシュパネルの上部には、ホワイトとベージュのマイクロファイバー テキスタイルが採用されています。Audi Q4及びQ4 Sportbackにおいて、持続可能性（サステナビリティ）は最優先事項となっています。これは、電動駆動システム以外の面にも適用されています。その一例としては、このクルマのフロアカバーがリサイクル素材で作られていることが挙げられます。また、クロームメッキされた装飾フレームの代わりに、表面に高品質な多層塗装仕上げを施したフレームを使用しています。この塗装された艶消しプレキシガラスは、深みのある印象を生み出します。ヘッドレストが一体化された4つのシートの張地には、熟練工の手によって製造された、快適なアルカンターラが採用されています。このシートには、太い糸を使用したダブルステッチによる装飾が施されています。

速度、充電レベル、ナビゲーションといった最も重要な情報を表示するバーチャルコックピットは、ステアリングホイールの後方に設置されています。拡張現実（AR）機能を備えた大型ヘッドアップディスプレイは、このクルマの新しい機能です。このディスプレイは、ターンインジケータなどの重要なグラフィック情報を、車両前方の道路上に浮かんでいるように投影することができます。

タッチエレメントを使用したステアリングホイールの操作パネルでは、頻繁に使用する機能を割り当てることができます。センターコンソールの中央部分には、インフォテインメント及び車両の機能を表示及び操作するための、12.3インチ タッチスクリーンが設置されています。このディスプレイは、操作性を向上させるためにドライバーに向けて設置されています。エアコンディショナー用のボタンは、その下に配しています。

センターコンソールは、シフトレバーやパーキングブレーキレバーを設置する必要がないため、携帯電話用の充電クレードルを含む、広い収納スペースとなっています。美しくデザインされたトレイのような部分には、トランスミッションのモードを選択するためのボタンが一体化されています。ドアには、従来のドアポケットに加えて、手の届きやすい位置にボトルホルダーも設置されています。

効率的なパフォーマンス：駆動システムとサスペンション

モジュラー エレクトロフィケーション プラットフォーム（MEB）は、幅広い駆動方式と出力レベルに対応しています。Audi Q4 Sportback e-tron conceptには、ハイパフォーマンスな電気駆動システムが搭載されています。フロント及びリヤアクスルは、電気モーターによって駆動されず（電動quattroシステム）。フロント及びリヤアクスルをつなぐ、機械的なリンクはいっさい存在しません。その代わりに、電子制御システムが、トルクを一瞬で前後のアクスルに最適に配分します。これにより、このSUVクーペは、あらゆる気象条件やあらゆる路面状況で最適なトラクションを発揮することができます。

ほとんどのケースでは、Audi Q4 Sportback e-tron conceptは、最高の効率を達成するために、主にリヤに搭載された永久磁石同期モーターを使用します。効率上の理由から、通常はリヤアクスルにより多くの駆動力が配分されます。



ドライバーが、リヤの電気モーターが供給可能なパワーよりも多くの駆動力を要求した場合、この電動4輪駆動システムは、必要に応じてフロントの非同期モーターにトルクを配分します。これは、滑りやすい路面や高速コーナリング中にスリップが発生する前、あるいは車両がアンダーステアまたはオーバーステアの状態になる前にも予測的に行われます。

リヤの電気モーターは150kWの出力と310Nmのトルクを発生します。フロントの電気モーターは出力75kW、トルク150Nmです。前後を合計したシステム出力は225kWです。フロアに搭載されたバッテリーは、82kWhの容量を備え、WLTPサイクルで450km以上の航続距離を可能にしています。バッテリーは、最大125kWで充電することができます（事情は市場や時期により異なります）。125kW急速充電を利用できる場合、約30分でバッテリー容量の80%まで充電することができます。

しかし、この優れた航続距離は、大容量バッテリーだけで達成されるわけではありません。ファミリーの最初のメンバーであるAudi Q4 e-tron conceptと同様に、Audi Q4 Sportbackの設計も、最高の効率を求めて空気抵抗を削減することから始めました。その結果、この新しいコンセプトモデルのCd値（空気抵抗係数）は、Q4 e-tron SUVよりも0.01低い、0.26を達成しています。このコンパクトな電気自動車は、航続距離を最大化するために、洗練された回生システムも備えています。さらに、駆動系とバッテリーを保護する、CO₂ヒートポンプを備えた高度な熱管理システムも、高い効率に貢献しています。

スポーティで正確なハンドリング

スポーティなキャラクターと優れたコーナリング性能は、駆動コンポーネントが車両中央の低い位置に搭載されていることが大きく貢献しています。バッテリーシステムは、Audi Q4 Sportbackのボディサイズに合わせて最適化され、前後アクスル間の乗員コンパートメント下にフラットなブロック形式で配置されています。バッテリーシステムの重量は、510kgです。Audi Q4 Sportback e-tron conceptの重心高は、一般的な駆動システムを搭載したセダンの重心高とほぼ同じです。

前後重量配分は、理想的な50:50です。Q4 Sportback e-tron conceptのフロントサスペンションには、アダプティブダンパー付きのマクファーソンストラットが採用されています。リヤサスペンションは、別体式スプリングとアダプティブダンパーを備えたマルチリンクタイプです。

モジュラー エレクトリフィケーションプラットフォーム (MEB) : 車両のベース

これまで、モジュラー ロングチューディナル プラットフォーム (MLB) 及びモジュラー ラテラルプラットフォーム (MQB) と名付けられた車両開発用のコンポーネントシステムは、アウディ及びフォルクスワーゲングループの様々なセグメントの車両に採用され、大きな成功を収めてきました。これらのプラットフォームは、主に内燃エンジン搭載車のために設計されていました。モジュラーエレクトリフィケーションプラットフォーム (MEB) との相違点は、MEBが電気駆動システムを搭載したモデル専用設計されている点です。アクスル、駆動システム、ホイールベース、そして関連するすべてのコンポーネントがeモビリティ専用を選択され、最適化されています。



MLB及びMQBでは、他の駆動システムを考慮しながら、大容量バッテリーユニットの配置や形状を適合させる必要がありましたが、MEBでは、一切の妥協なしに、これらを最適化することができます。

同時に、MEBは大きな相乗効果の可能性を開きます。このプラットフォームは、主に量産Aセグメントの電気自動車のベースとして機能します。そのため、利用可能な最高のテクノロジーがブランドの枠組みを超えて共同開発され、多くの異なる電気自動車で共有することが可能になります。MEBは、特に価格に敏感なコンパクトセグメントにおいても、電気自動車の急速な普及に貢献するでしょう。

電動化イニシアチブ：2025年までに20を超える電動化モデルを発売

アウディは、2018年9月に電気自動車のSUVモデル、Audi e-tronを世界初公開して、電動化攻勢を開始しました。2025年までに、アウディは全世界の主要な市場において、20以上の電気自動車を発売して、電動化モデルの販売台数を全体の約40%にすることを目指しています。電動化ラインナップにおけるSUVには、e-tron及びe-tron Sportbackが含まれます。さらに、AvantやSportbackといった、従来型のボディを備えたモデルも導入されます。今後のラインナップは、コンパクトクラスからラグジュアリークラスに至るまで、あらゆる市場セグメントを網羅する予定です。

※本リリースは、AUDI AG配信資料の翻訳版です。